

獨協医科大学埼玉医療センターに最新モデルの手術支援ロボット「ダヴィンチXi」を導入！

—いろいろな治療選択肢から、最適な前立腺がん治療を—

前立腺がんとは

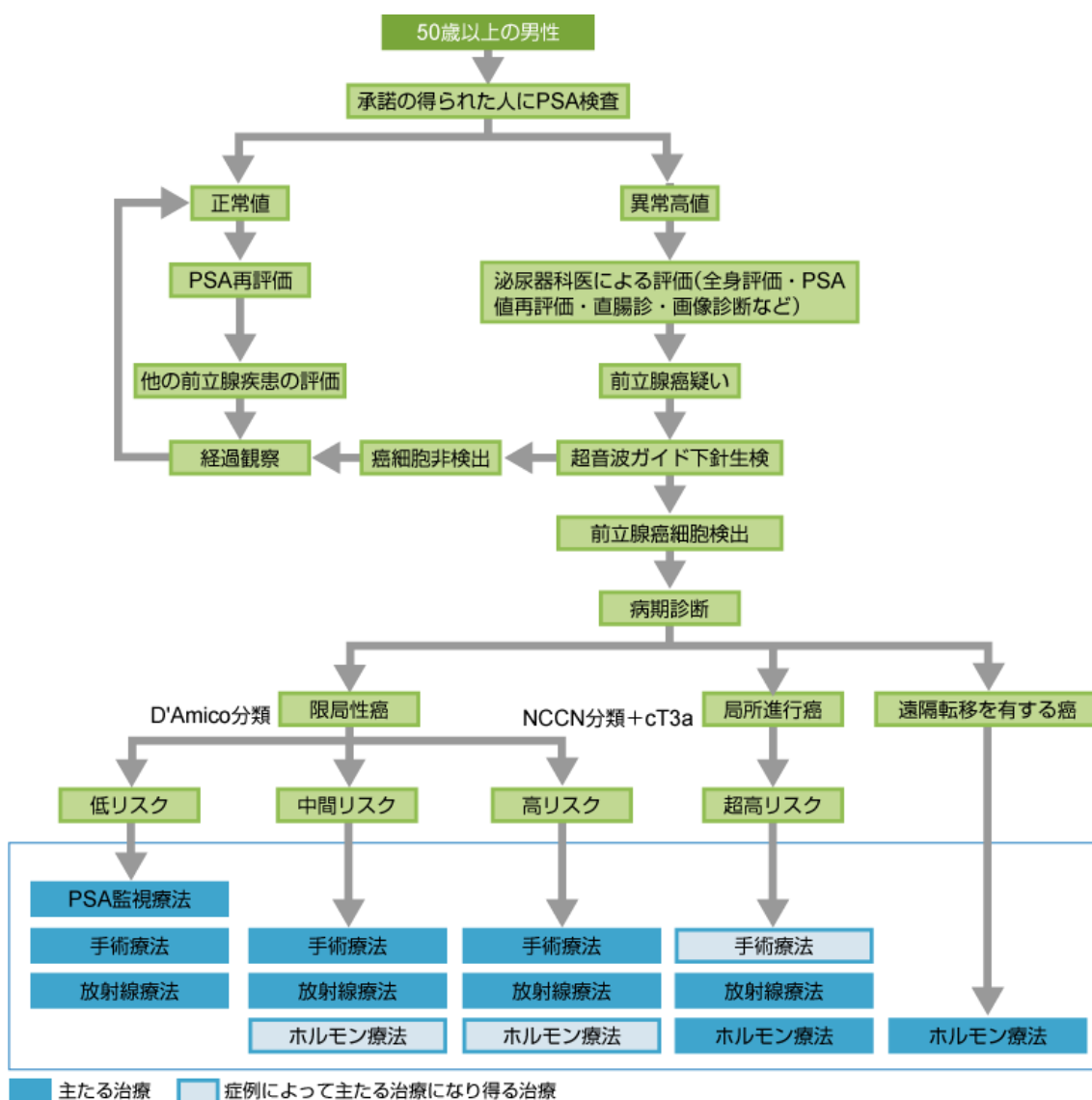
前立腺がんは前立腺に発生したがん、食生活の欧米化、腫瘍マーカーである前立腺特異抗原 (prostate specific antigen: PSA) による早期診断が可能になったことに伴い、その発病率、死亡率ともに近年、急速に増加してきています。

前立腺がんの最適な治療方法を選択

前立腺がんの多くは、病気が進行していても比較的予後が良好です。複数の治療方法をリスクにより、順次または並行して行います。治療の方法としては、無治療経過観察 (PSA 監視療法) からロボット手術療法、放射線療法 (外照射、小線源療法)、ホルモン療法、抗癌剤など多岐に渡り、獨協医科大学埼玉医療センター泌尿器科では、いずれの治療法にも対応できます。患者さんの年齢、からだの状態を考えて、十分なインフォームドコンセントののち、患者さんとの相談により治療方法を決めます。

獨協医科大学埼玉医療センター





前立腺がんガイドライン 2016 年より

組織内照射療法

組織内照射療法とは、放射線を出すシード線源を前立腺に埋め込む方法です。代表的な方法として、ヨウ素 125 を埋め込む永久挿入密封小線源療法(LDR: low dose rate)があります。永久挿入密封小線源療法は、放射線を出すシード線源を超音波ガイド下で前立腺に埋め込む方法で、低侵襲性で、手術が困難と考えられる患者においても治療が可能かつ、直腸障害や性機能に与える影響が少ないというメリットがあります。組織内照射療法は、リスクが高い癌であってもホルモン療法、外照射療法との組み合わせにより、良好な治療成績が認められています。

ロボット支援腹腔鏡下手術

手術支援ロボット「ダヴィンチ-daVinci-」は米国 Intuitive Surgical,Inc が開発した内視鏡手術支援ロボットで、3本のロボットアームと内視鏡(腹腔鏡)と操作コンソールからできています。術者は、人体から離れた操作用の器具を用いて、立体的な 3D内視鏡映像を見ながら、体内に挿入した自由度の高いロボットアームによる手術操作を行います。高解像度3D画像、鉗子の関節可動域の広さと高い自由度、自然な操作感がえられることが、勃起神経の温存や前立腺摘除後の膀胱尿道吻合をより確実にしています。獨協医科大学埼玉医療センター泌尿器科では、新病棟の開院にあわせて、最新機種である「ダヴィンチ-daVinci Xi-」を導入しました。根治的前立腺全摘除術と腎部分切除術にロボット支援腹腔鏡下手術の保険適応があります。

利点

- ・がん組織のより精密な切除
- ・出血量の減少
- ・入院期間の短縮
- ・より早い回復、日常生活への復帰
- ・失禁や性機能のより早い回復など

ダヴィンチ-daVinci Xi- : 免震構造設計になっている da Vinci 専用手術室を完備



獨協医科大学埼玉医療センター泌尿器科には、日本泌尿器科学会・日本泌尿器内視鏡学会認定の泌尿器ロボット支援手術プロクター1名を含め、ロボット認定資格医が4名在籍しており、万全の体制でダヴィンチ手術に当たります。

外来予約につきましては、通常の予約診療と同様に総合医療相談部（連携部門）へご連絡いただき、ご予約をお取りいただきますようお願いいたします。*FAX 予約用紙は、総合医療相談部のホームページからダウンロードできます。

<http://www.dokkyomed.ac.jp/dep-k/k-sogo/policy.html>

※ご予約 → 総合医療相談部（医療連携部門） TEL.048-965-1147

FAX.048-967-4666